



ラオス中部の村落における聞き取り調査の様子
(REDD+ 成果払い活用事業に向けて)

テーマ：REDD+ 案件特集その 1 (アジア編)

— 目次 —

- 巻頭メッセージ …… 1
- メイントピックス …… 2
 - REDD+ 案件の現状（アジア地域中心に） —
- プロジェクト紹介 …… 4
 - ・ ラオス国 効果的な REDD+ 資金活用に向けた持続的森林管理能力強化プロジェクト (F-REDD 2)
 - ・ ベトナム REDD+ 成果支払いまでの長い道のり
- コラム …… 8
 - ・ 森から世界を変えるプラットフォームについて
- 職員紹介 …… 9
- 着任・離任挨拶 …… 10

■ 巻頭メッセージ ■

JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ 次長 野田 英夫

「自然環境だより」の読者のみなさま、今号もお読みいただきありがとうございます。

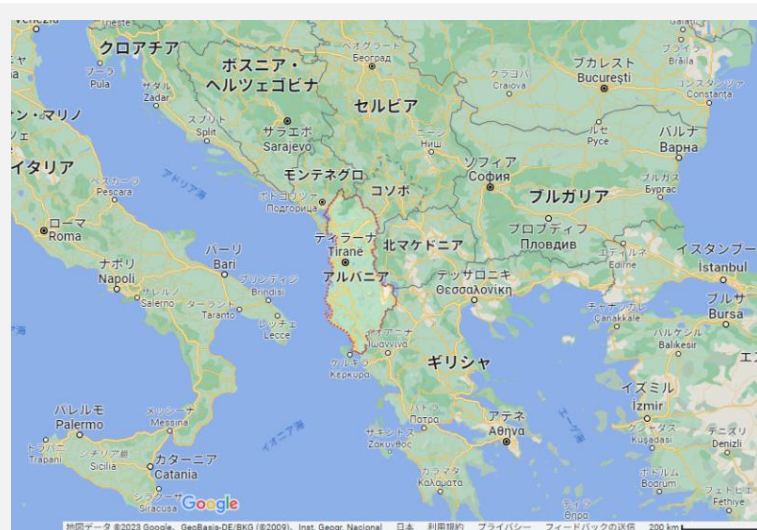
7月上旬、アルバニア(⇒[アルバニア | 各国における取り組み - JICA](#))の首都ティラナに出張しました。この国はモンテネグロ、コソボ、北マケドニア、ギリシャ、海を隔ててイタリアに囲まれています。

面積は四国の約1.5倍で、人口は約280万人と比較的小さな国ですが、言語、宗教、文化、歴史、自然…など様々な面でユニークなところがあり、そして親日でもありなかな興味深い国です。

ここでは今、JICA技術協力プロジェクト「国家森林火災情報システム(NFFIS)とEco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト」の準備をしています。2019年に設立されたばかりのNational Civil Protection Agency(NCPA)をC/P機関として2024年の開始を目指し、このたびプロジェクトの枠組みについて協議しました。

このプロジェクトを含め西バルカン地域(アルバニア、北マケドニア、コソボ、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロの6カ国の総称)では、2018年に日本政府の表明した「西バルカン協力イニシアチブ」に基づき、自然環境保全分野のプロジェクトを続々と展開しています。JICAグローバルアジェンダ「自然環境保全」にも合致した取組として今後も積極的に発信していきますので、ぜひ引き続きご関心をお寄せください。

さて、今号の特集は、「REDD+案件特集その1(アジア編)」です。ラオス、ベトナムなどアジアでのREDD+の取組について、過去の長い歴史と共に今の様子がわかる、とても読み応えのある内容となっています。2007年のUNFCCC-COP13でREDD+が将来の気候変動緩和策として位置づけられてから約15年が経った今、次号の「その2(中南米・アフリカ編)」と合わせて、REDD+について自分自身もアップデートしたいと思います。そのほか、「森から世界を変えるプラットフォーム」のご紹介や、毎号恒例の職員のエピソードも満載ですので、今号もどうぞ楽しんでいただければ幸いです。



地図中央に位置するのがアルバニア。北方のセルビア・ベオグラードには西バルカン諸国を担当するJICAバルカン事務所(地図:Google Map)



筆者(左)とNCPA長官(2023年7月・NCPA)

JICA の REDD+支援とアジアの動向について

国際協力専門員 宮菌 浩樹

JICA では現在複数の REDD+関連プロジェクトを実施中ですが、これら支援がどのような経緯を経て現在に至っているのか振り返りつつ、特にアジア地域の REDD+の現状について概括したいと思います。

今でもはっきりと覚えています。2007年12月 COP13（バリ）出張者から「こちらでは REDD+旋風が吹き荒れている。」との連絡が林野庁海外林業協力室に入りました。COP での熱い議論とともに、世銀が FCPF 設立を発表したり、一部先進国がいち早く REDD+支援に関心を表明する中で、日本としても何かアクションを起こさないと出遅れる（REDD+実施に適した国や地域等が他の先進国に囲い込まれる）との焦燥感の入り混じった連絡でした。

その後、先ず取っ掛かりとして COP13 から間もない 2008 年 3 月に林野庁がインドシナ 3 カ国（ベトナム、ラオス、カンボジア）の森林担当部局を日本に招き IGES と共催で「REDD+とは何か？」を理解してもらうためのワークショップを開催しました。当時この 3 カ国には JICA 森林政策アドバイザーが派遣されていたことから、そのサポートを得ての緊急開催でした。これらの参加者はその後、それぞれの国における REDD+推進のキーパーソンとなって JICA だけでなく FCPF や UN-REDD 等の担当として活躍することになります。



2008 年の REDD+に関するワークショップ
（林野庁・IGES 共催で前方左端が筆者）

REDD+に関する重要な COP 決定は「バリ行動計画（COP13）」含めいくつかありますが、その一つである

「カンクン合意（COP16）」では REDD+は以下のようにフェーズに分けて行うことが奨励されています。

フェーズ 1 【準備段階】 国家戦略又は行動計画の策定やキャパシティビルディング

フェーズ 2 【試行段階】 技術開発・移転及び実証活動等

フェーズ 3 【完全実施段階】：完全に計測・報告・検証されるべき結果に基づく活動（成果支払いの獲得が可能となる）

JICA は関係省庁（外務省、林野庁等）とも連携しつつ、上記フェーズに沿った段階的な REDD+支援を技術協力（技プロ・開発調査）及び無償資金協力（環境プログラム無償）などのスキームを組み合わせながら効果的に進めてきたところですが、その中で現在ベトナム及びラオスについては、両国が緑の気候基金（GCF）（4 頁注釈 1）からの成果支払い（Result-based payment: RBP）を獲得するための準備作業を JICA が全面的にサポートしているところです。

なお、アジア地域全般における REDD+の進捗状況に関しては、フェーズ 3 に当たる GCF-RBP の受取りまで至った国は現在のところインドネシアのみであり、その後に位置するのが GCF-RBP を申請準備中であるベトナム及びラオスということになるかと思えます。RBP については GCF だけでなく FCPF（Carbon

Fund) (4頁注釈2) や JCM-REDD+など他のスキームもあり、それらも併せて俯瞰するとカンボジア、ネパール、PNG、フィジーなども一定の進捗を見せています。

最後に、約15年にわたる様々な JICA の REDD+支援ですが、多くの方々の熱意と努力のお陰で実を結びつつあります。その過程は REDD+が本当にモノになるのかなど色々と悩みつつ試行錯誤の連続だったように思います。その中で、「我々のやっていることは REDD+があろうがなかろうが森林保全のために必要なことなんだ。」という基本姿勢を忘れず地道に取り組んできたことはとても貴重な経験であり、今後もそれをベースに更なる発展を図っていききたいものです。



ラオス 成果払いフェーズの活動候補地（村落利用の土地と森林の境界）

■プロジェクト紹介■

ラオス国

効果的な REDD+資金活用に向けた持続的森林管理能力強化プロジェクト(F-REDD 2)

業務主任者 国際航業株式会社 江頭 英二

東南アジアの小国ラオスが REDD+に頑張っているのをご存じでしたか？

例えば、気候変動枠組み条約（UNFCCC）締約国のうち 12 か国目、東南アジアではマレーシア、インドネシアに続く 3 か国目として、2021 年に国全体の REDD+成果の報告を完了し、緑の気候基金（GCF）の「REDD+成果支払いプログラム」¹への申請を目指しています。また、森林炭素パートナーシップ基金の炭素基金（FCPF Carbon Fund）²の対象国としても、北部 6 県を対象とする成果支払いに向かっています。

では、ラオスはこれらの REDD+成果支払いを手にし、未来の森林保全へと繋がられるのでしょうか？実施中の技術協力「ラオス国効果的な REDD+資金活用に向けた持続的森林管理能力強化プロジェクト」(F-REDD 2) は、その実現を目指すプロジェクトです。その内容をご紹介します。

まずは森林政策とドナー協調への支援があります。政策の立案とその実行には有機的な連携が求められ、とりわけヒト・モノ・カネのキャパシティが限られるラオスではドナー協調による支援の最適化が重要です。そのため、長年にわたる JICA 支援の経験を活かし、他ドナーと分担しながら森林戦略 2035 や保護林首相令改訂に協力しています。

次に国家森林モニタリングシステム（NFMS）を中心とした REDD+実施の支援です。これまでの JICA による森林情報整備の成果を活用し、国全体の森林状況の分析や、FCPF 炭素基金から成果支払いを受けるために排出削減量の計測と報告を支援しています。また衛星画像を用いた森林モニタリングのツールである県森林減少早期モニタリングシステム（PDMS）を、世界銀行、GIZ、WWF などとの連携を通じて、今年中に全国 18 県のうち 15 県に導入を進める予定です。そして、NFMS ウェブポータル³を通じて、これら森林情報の透明性の向上と利用促進を図っています。いずれも近年のデジタル技術の発展に合わせた展開が求められます。



PDMS は森林減少の早期発見を可能とし、スマートフォンでも簡単に利用可能です。既に全国 10 県が利用中で、さらに拡大が予定されています。

¹ GCF は、開発途上国の気候変動対策支援を目的した UNFCCC の基金として 2010 年に設立されました。この支援の一つに「REDD+成果支払いプログラム」があります。

² FCPF は世界銀行が信託を受けて運営する REDD+基金です。そのうち炭素基金（Carbon Fund）は世界 18 ヶ国に対して成果支払いを予定しています。

ラオスに関する情報はこちらから。<https://www.forestcarbonpartnership.org/country/lao-pdr>

³ NFMS ウェブポータルは誰でも利用可能、こちらから。<https://nfms.maf.gov.la/>

そしてラオス南部のサバナケット県の REDD+能力向上があります。過去に JICA は北部県を支援の中心としていました。それらの成果が、現在、世界銀行や GIZ の資金による拡大へと繋がったのを受けて、F-REDD 2 ではドナー支援が手薄な南部のサバナケット県へと目を向けることとなりました。県の REDD+実施に必要な能力の習得や、約 250,000ha に広がる森林ランドスケープの一体的な管理という新たな試みに取り組んでいます。GCF の REDD+成果支払いが得られれば、サバナケット県を含む南部 5 県にその資金が再投資され、これらの取り組みを拡大する構想です。

F-REDD 2 の醍醐味は、多くの開発パートナーと連携しながら、ラオスの REDD+が国際的に認められるために重要な一翼を担っている点です。ラオスにとっても、それを支援する我々 JICA チームにとってもチャレンジングな状況が続きますが、進めば道は拓けると信じて力を合わせて進んでいます。



森林区分図はラオスの森林分布を把握して多目的に活用するための重要な基礎情報です。育成されたカウンターパート同士の学びあいも進んでいます。

それぞれの活動について、詳しくはこちらをご覧ください。

ウェブページ <https://www.jica.go.jp/Resource/project/laos/028/index.html>

フェイスブック <https://www.facebook.com/Laos-F-REDD-2-Project-113813298175099>

ベトナム REDD+成果支払いまでの長い道のり

持続的自然資源管理強化プロジェクトフェーズ2 チーフアドバイザー 高橋 漢

JICA は、ベトナムにおける REDD+実施を長年支援してきました。特に、緑の気候基金（GCF）が実施する「REDD+の成果支払い」については、ベトナム全体の REDD+成果に対する支払いを窓口となって獲得すべく、様々な活動を展開してきました。今回の記事では、「REDD+の成果支払い」に向けた実に地道で長い道のりについて振り返ってみたいと思います。

【黎明期】

ベトナムにおける JICA の REDD+支援は、10 年以上前の 2009 年にまで遡ります。当時はまだベトナムも REDD+への参加を表明したばかりで、正直、国内の REDD+ポテンシャルやどのように REDD+の成果計算をするのかなど、技術的な面においても手探りの状態でした。こうした中、JICA は「ベトナム国気候変動対策の森林分野における潜在的適地選定調査⁴」（2009～2012 年）という開発調査を実施しました。

この調査では主に、ベトナムで利用可能な森林データの整理を行った上で、REDD+成果計算のベースライン（FREL/FRL）をどう引くのかについて技術的な検討をしています。結果として、国内に存在する 5 年おきの森林モニタリングデータを使用して、森林の被覆図と排出係数を計算する手法が提案され、これが今日のベトナムにおけるベースライン計算の基礎となっていることは、特筆に値するでしょう。REDD+ではベースライン算出に使用したのと同じ手法を使って成果量も計算する必要があることから、当時提案された手法は今日の成果計算にも使用されています。

【REDD+政策の整備】

上記の技術的な作業と並行してベトナム国内で整備が進められたのが、REDD+に関する国内政策の整備でした。ベトナムにおける REDD+政策に当たるのが、2012 年中頃に発表された「国家 REDD+行動プログラム（NRAP）」です。この政策と並行して省レベルの REDD+行動計画（PRAP）が作られ、この省レベルでの政策作りを支援し、かつ将来的な国家政策の改定に資する目的で開始された支援が「ディエンビエン省 REDD+パイロットプロジェクト⁵」（2012～2013 年）でした。

当時、大多数の人が REDD+という言葉自体も聞いたことが無く、国としてのガイドラインも無かった時代に、省レベルで具体的な活動に紐づけた行動計画を策定するのは困難を極めました。関係者との幾度もの議論・調整を経て、2014 年に国内初となる省 REDD+行動計画が同省より発表されました。この省レベルの行動計画はその後、他省における政策立案の参考として使われただけでなく、その後の中央政府が発行した「省 REDD+行動計画策定ガイドライン」（2015 年）にも大きな影響を与えています。

【REDD+現場活動の推進】

上記ディエンビエン省における REDD+政策の整備と並行して、それを具現化する為の REDD+現場活動の実施を 2013 年から開始しました。この支援は「北西部水源地域における持続可能な森林管理プロジェク

⁴ <https://libopac.jica.go.jp/images/report/11955051.pdf>

⁵ https://openjicareport.jica.go.jp/880/880/880_123_1000014823.html

ト⁶」(2010～2015年)を通じて実施されたもので、森林を保全することによる排出削減から、植林等による吸収増加の活動まで、またそれらを促進するための生計向上活動など活動は多岐に亘りました。

【成果支払い準備】

上記プロジェクトが終了した2015年には、ベトナム国内におけるREDD+準備も急ピッチで進められており、2016年にはREDD+成果計算のベースライン(FREL/FRL)が国連気候変動枠組み条約(UNFCCC)事務局へ提出され、翌年にはその技術審査が完了することになります。また同時に、REDD+にかかるセーフガードの整備も他ドナー支援等により進められ、2019年までにはセーフガード情報システムと要約報告書の策定も完了しています。

この時点で最後に残された作業はREDD+成果量の計算とそのUNFCCCへの報告になります。JICAは「持続的自然資源管理プロジェクト⁷」(2016～2021年)を通じて、REDD+成果量の計算と報告について他ドナーと共同で技術支援をおこない、2021年に同成果がUNFCCCに提出され、翌年に技術審査を通過しています。

ここまででベトナムは成果支払いの基礎要件を全て満たしたことになります。それまでに10年以上のREDD+支援実績のあるJICAですが、こうした実績を買われて、ベトナムを代表してGCFの成果支払い申請をおこなう機関として抜擢されています。

現在は、上記プロジェクトの第二期⁸(2021～2025年)を通じて、同国のGCFの成果支払い申請に向けた準備を進めているところです。順調にいけば、年内にはその応募が完了し、技術審査等を経て1億ドル(145億円)程度の支払いが期待されています。この額は、現在のベトナムにおける森林部門の年間国家予算に相当する額で、森林セクターにとって大きなインパクトのある資金となることは間違いありません。



地域・省レベルでのREDD+セーフガードワークショップの参加者達



REDD+活動実施によるリスク(負のインパクト)について議論する地元の参加者達。REDD+計画はこうした地道な議論の積み重ねの上に成り立つ。

⁶ <https://www.jica.go.jp/oda/project/0900439/index.html>

⁷ <https://www.jica.go.jp/Resource/project/vietnam/037/index.html>

⁸ <https://www.jica.go.jp/oda/project/1941864/index.html>

森から世界を変えるプラットフォームについて

JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ 自然環境第一チーム
片田 美穂

<森から世界を変えるプラットフォームとは>

2021年、JICAは国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所とともに「森から世界を変えるプラットフォーム」を設立しました。本プラットフォームは、SDGsの達成に向け、途上国における森林保全・再生、および持続可能な森林管理に関わる多様なステークホルダーの取組を推進するためのものです。前身の「森から世界を変える REDD+プラットフォーム」(2014年～2020年)の取組を発展的に継続するもので、情報・経験の共有、啓発イベントやセミナーの開催、参加会員の所属企業・団体による共同活動の企画支援などを行っています。



森から世界を変える
プラットフォーム

現在の会員数は約300名で、コンサルタントやメーカー等の民間企業、NPO/NGO、研究・教育機関、官公庁等多方面からご参加いただいています。森林分野に関心を有する会員が集い、情報や意見交換を行うことで、技術・知識の向上やネットワークの創出を図っています。

<本会の活動>

◆ 基本的活動 2022年度の実績は以下のとおりです。

■ セミナー

- ・ 6/10 「World Forestry Congress (WFC) 2022 を通してみた世界の森林・林業施策の動向と展望」
- ・ 10/11 「森林の減少・劣化の現状と農業セクターの取り組みから学ぶ対策」
- ・ 10/28 「森林とジェンダー」(森林・林業ウーマン@海外部とのコラボセミナー)
- ・ 1/27 「フォレストカーボンセミナー：COP27 等報告会」(国際緑化推進センター(JIFPRO)と共催)
- ・ 3/1 「森林減少・劣化に繋がらない農業を目指す動きと今後の展望」



3月1日開催「森林減少・劣化に繋がらない農業を目指す動きと今後の展望」パネルディスカッションの様子

■ メールマガジンによるセミナー開催情報や森林・自然環境分野の情報提供(隔週)

■ 企業への個別対応(面談等)(随時)

◆ 定例会

◆ 分科会

<森から世界を変えるプラットフォーム 会員登録と今後のセミナーのご案内>

- ◆ ご関心ある方は是非、会員になって頂ければ幸いです。会員登録、年間費はともに無料です。詳細はこちら↓

https://www.jica.go.jp/activities/issues/natural_env/platform/index.html

(またはQRコード)から！

お問い合わせ：forest_platform@jica.go.jp



- ◆ 「森林×海外 キャリアセミナー」を開催します！

2023年8月8日(火) 12:00~13:30 オンライン開催

森林分野で活躍されている方々に登壇頂き、学生やユース世代に向けて、海外の森林に関わる事業やお仕事内容、ご本人のキャリア形成等についてお話いただきます。ご参加をお待ちしています！（会員未登録の方は本セミナー参加登録時に、自動的に会員として登録させていただきます。）

また、周りにご関心のある方がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけください。

セミナーの詳細はこちらから↓

https://www.jica.go.jp/Resource/activities/issues/natural_env/platform/20230710.html

申し込みはこちらから↓

<https://forms.office.com/r/dMYEtUUh1j>



■職員紹介■

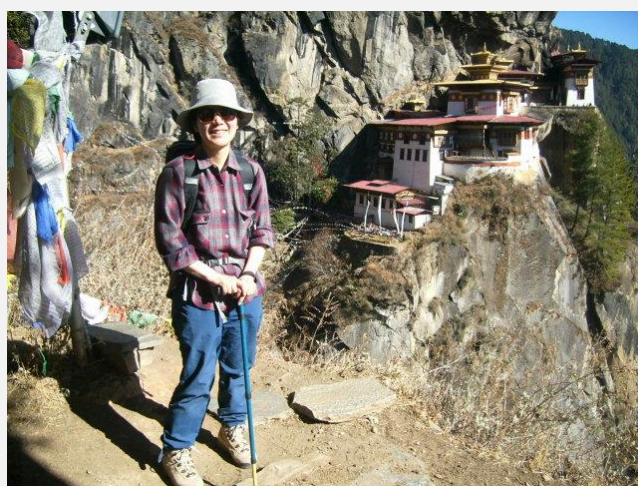
JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ 自然環境第二チーム
専門嘱託 依田 明実

昨年11月より自然環境第二チームで専門嘱託として勤務しています。

今までの進路選択や業務経験を振り返りますと、いつもどこかに「環境／自然」と「国際」がキーワードとしてあった気がします。

環境（問題）に関心を持ったのは小学校3～4年の時。当時は公害がひどかった時期で、光化学スモッグ注意報が出ると校庭では遊べませんでした（目がちかちかした覚えもあります）。社会科の授業で四大公害病について学び、状況を改善したいという気持ちが芽生えたと記憶しています。

その後、アメリカの大学で、当時の日本では学べる機会が少なかった環境学を学ぶ機会に恵まれ、フ



ブータンのタクツァン僧院参拝時。ブータンの人々は世界の平和を祈願するそうです

ワールドワークをしたくて北海道へ。大雪山国立公園で登山道の侵食について調査・研究することになりました。この時、調査のために登山も始めることになったのですが、その楽しさ、奥深さ、厳しさを知るとともに、高山植物、野生動物、山での行動・生活等、たくさんのお事も学びました。忘れがたい人々にも出会いました。それなりの荷物を背負って歩くのを楽しめる、自分の新たな一面も発見できました。

自然（特に山）の中を歩く楽しさを覚えてしまったため、その後、ネパールのアンナプルナ BC と（調査でしたが）カンチェンジュンガ BC、カナダのバンクーバー島ウエストコースト・トレイル、ニュージーランドのミルフォード・トラック、熊野古道（一部）へも歩きに行きました。各国赴任中も、国立公園や自然保護区を訪ねました。ビジターセンターがあれば見学し、資料があれば購入し（たまる一方で片付けられません）、現地ガイドツアーにも参加しました。

歩き続けていると、見るもの、聞くもの、食べるもの、身の回りで起きる全てが素直に頭や体に入ってくる感覚を覚えます。

故障中の部分が治り、動ける体を取り戻したら、また、無理のない範囲で歩きに行きたいと思っています。世界各地が安全に歩けるような状況になることを願う日々です。

もう一つのキーワード、「国際」ですが、これもまた、小学校時代に、当時、海外特派員だった磯村尚徳さんの報道を見たのが、海外の現場に身を置いて仕事をするに関心を持つきっかけとなりました。

というわけで、2つのキーワードが関わる現在と過去の JICA 業務（タンザニアのボランティア調整員、地球ひろばの案内人、ブータン、ベトナム、マレーシアのプロジェクト）に携わる機会をいただいたことを本当にありがたく思っております。（JICA 以外の業務も、やはり、この2つのキーワードが絡んでいます）

残りの期間も、みなさまから学びつつ、業務に取り組みたいと思います。

駄文失礼しました。



■着任の挨拶■

JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ 自然環境第一チーム
片田 美穂

4月より入構し、森林・自然環境グループに配属となった片田です。学生時代から関心のあった、自然環境保全分野で働けること、大変嬉しく思います。入構して数か月、まだ戸惑うことも多いですが、知らなかったことに出会い、自分の知識となっていく日々がとても楽しいです。毎日の学びを早く誰かのために還元できるように、入構当初の志を忘れずに（就活当時の ES やメモをたまに見返したりしています）業務に励んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします！



和歌山県の千畳敷にて

■ 離任の挨拶 ■

JICA 九州センター 市民参加協力課 黒住 知代

JICA に入構して最初の 2 年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました！

森林・自然環境グループで関わったプロジェクトのこと、関係者の皆様のごことは一生（というと何だか大げさですが）忘れないと思います。

現在は北九州に異動し、東京と比べると森と海に近いところで生活しています。多文化共生や地方創生に関する、地球環境部とは全く違う事業に取り組んでいますが、仕事の仕方、専門的な知見、プロジェクト監理等、ふと、地球環境部での業務経験が活きたときがあり嬉しく思っています。

これからも皆様とのご縁を大事にしたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。



JICA 九州にて。九州に来られる際はぜひお立ち寄りください！

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

ご意見・ご感想をお待ちしております。
以下の連絡先までぜひご連絡ください。

JICA 地球環境部森林・自然環境グループ 自然環境保全課題支援事務局

TEL: 03-5226-6656 FAX: 03-5226-6343

e-mail: jicage-nature@jica.go.jp

自然環境だよりバックナンバー

http://www.jica.go.jp/activities/issues/natural_env/nature_info.html